

分かち合う水

僕は夏休みの理科研究に、水のろ過をテーマに選びました。

汚れた水を、みょうばんや砂や炭を使って、どれくらいきれいな水にろ過できるかという研究でした。

実験の結果は、どれも飲める水には程遠い結果となりました。そのことから、僕は「水」に関心を持つようになりました。

水は、人間が生きていくうえでなくてはならないものです。

僕が「水」といって思い浮かべるのは、日常生活の中で当たり前に使っている水道水やお風呂の水等です。

しかし、ニュースでは泥水を飲むしかない子どもや何キ口も歩いてバケツ一杯の水汲みだけで

一日が終わってしまう子ども達が報道されていました。

そして、近くに川や池のない場所で、井戸を掘る活動も紹介されていました。

さらに、その井戸水が安全であるかきちんと調査することが、

とても重要であると力説していました。

僕の実験したる過水は、一目見て濁っていたり色がついていたりして、

きれいな飲める水でないことが分かります。

でも、井戸水には、目に見えないヒ素や毒である重金属が含まれていることもあるそうです。

ただ水を提供するだけではなく、よほどしっかりと検査などのアフターケアまで注意しなければ、

親切のつもりが反って危険な目に合わせてしまうかもしれないのです。

安全な水は無限にどこにでもあるものでなく、大切に使わなければならない有限なものなのです。

田舎のおばあちゃんから、田んぼの水の話を聞きました。

昔は、高い位置にある田んぼから順に低い田んぼへと、水を引き入れていたそうです。

稲作に水はとても大切で、自分の田んぼに必要な水が入ると、

田んぼの土手を割って下の田んぼへと水を流してあげるのです。

しかし、雨が少なく水が足らないと、上の田んぼで水が止まったまま水を流してもらえません。

困った下の田んぼの持ち主は、夜中に上の田んぼの土手を深く削って、

すっきり空になるまで水を流したりすることもあったそうです。

そこで、互いに自分の田んぼを見張る水戦争のような事態も起こったという事です。

今では、安定して水の供給ができるようにと、農業用水が出来ました。

おばあちゃんの田んぼの水は農業用水から引き込んでいて、

用水利用のためのお金を払っていると、話してくれました。

限られた資源である水を、皆が平等に利用できるようにするには、

例えば農業用水のようなシステムが必要だと僕は思います。

世界規模で考えたら、水には、川や湖、海水や氷山、雨水も入っているのかな。

土工学や建築学、海洋学や気象学等の世界中の専門家が知恵を寄せ合えば、

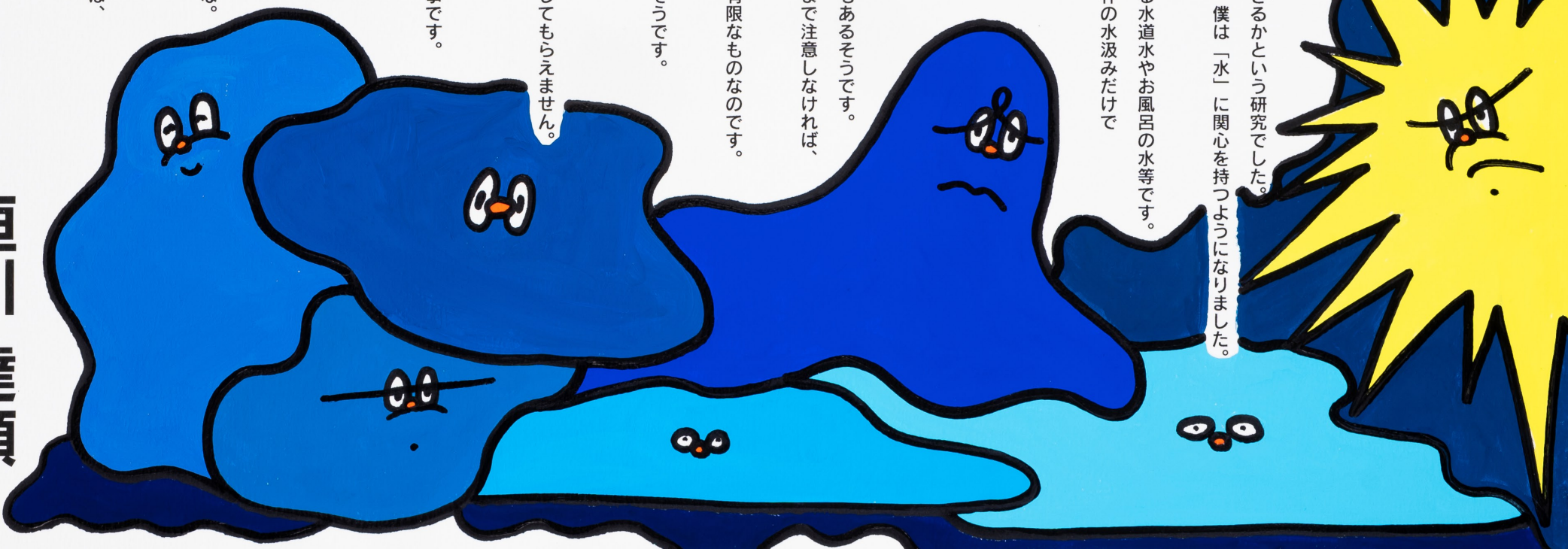
素晴らしいシステムができるはずだと思います。

僕たちは専門家ではないけれど、きちんとそのシステムを理解して協力すれば、

チームの立派な一員といえる。

水環境は空気と同じくらい大切に皆のものなのだから、

皆で守るものだと思えます。



文京区立金富小学校 六年

垣川達頼

絵 饅頭 VERY MUCH